

に送付し、幹事はこれを整理・解析して次回分科会に提出することになった。

(5) 次回分科会は、3月下旬頃に開催することになった。

第1回厚板設備分科会 開催日：2月10日。出席者：黒津亮二主査，ほか17名。

(1) 黒津主査より、分科会発足の趣旨説明と協力要請があつた。

(2) 広瀬圭介氏が幹事に就任した。

(3) 分科会の構成と運営について、分科会委員会は協会より正式に委嘱された委員よりなる分科会の基本方針決定機関とし、委員会の下部組織として実務担当班(Working Group と称する)を編成することになった。ワーキンググループは主査の指名による5名からなるものとした。

(4) 2月末までに所定様式による各社の資料を幹事に送付することとした。

(5) 次回分科会は、5月中旬頃に開催することになった。

.....

鋼 管 設 備 部 会

第1回部会 開催日：1月19日。出席者：三瀬部会長ほか24名。

部会、分科会、W.G.の活動開始に当たり、今後の進め方について討議を行なつた。

(1) 継目無鋼管設備分科会の下に、マンネスマンブラグミル、マンドレルミル、ピルガーミル、アッセルミル、ユジーンセジュールネ、エルハルトの6W.G.、溶接鋼管設備分科会の下に、ERW、CBW、UOE、スパイラルの4W.G.を設け各々とりまとめ担当会社を決めた。

(2) 実質作業は、W.G.ペースで行ない、8月の両分科会合同会議にて調整をし、9月の部会で答申案をオンライン化する。

(3) 具体的検討内容としては、鉄鋼生産設備能力算定方式・鋼管編(昭和43年)を基に、係数などの見直しに重点をおくことにし、今日的に見て明らかに不合理であるものは別として、式そのものの議論は行なわないことにする。

第2回部会 開催日：2月2日。出席者：野崎溶接鋼管設備分科会主査直属幹事，ほか13名。

1. 鉄鋼生産設備能力算定方式・鋼管編(昭43年)の見直し作業を進めるに当たつて、基本的事項について討議の結果、考え方の統一を行なつた。

(1) 基本的作業は各W.G.単位で進めるが、他の部会などとの共通な問題点などについては、協会事務局が調整し、情報を流すことにする。

(2) 共通基本事項として次の項目について考え方の統一を行なつた。検討範囲、対象設備、対象鋼種、年間作業日数、操業率、作業率、2本会以院は各W.G.単位で検討を進めることとなつた

鉄鋼基礎共同研究会・再結晶部会報告書

「鉄鋼薄板の再結晶及び集合組織」

昭和50年1月完成 定価 4,500円

B5版 2分冊 総476頁

鉄鋼基礎共同研究会「再結晶部会」は昭和45年4月発足以来「薄鋼板製造技術の基礎としての再結晶現象および集合組織」に焦点を合わせて共同研究を進めてまいりました。本年3月部会活動を終了するにあたりその間の研究成果をふまえ、さらに広く最近の主要研究データを網羅した報告書を作成いたしました。

この報告書が薄鋼板製造技術のみならず、広く鉄鋼材料製造技術上の再結晶を伴う諸過程の研究の資料として役立つことを確信いたします。本書は第1分冊(本文)と第2分冊(図、写真、表)よりなつております。

執筆者 東京大学 阿部 秀夫，小原 嗣郎，石田 洋一
 金材技研 古林 英一
 新日鉄 長島 晋一，速水 哲博，松尾 宗次
 日本鋼管 久保寺治朗，稲垣 裕輔
 川崎製鉄 大橋 延夫
 住友金属 寺崎富久長，金子 輝夫
 神戸製鋼 須藤 正俊

目 次

第1章	鉄鋼の再結晶と粒界移動
第2章	結晶粒界の構造と粒界移動の機構
第3章	低炭素リムド鋼板の再結晶および再結晶集合組織
第4章	低炭素アルミニウムキルド鋼板の再結晶および再結晶集合組織
第5章	低炭素鋼板の再結晶集合組織に及ぼす照化物形成元素添加の影響
第6章	低炭素鋼板の再結晶集合組織に及ぼす銅添加の影響
第7章	薄鋼板の成形と組織の関係
第8章	正極点図による集合組織測定法